基本的なクラス

オブジェクト指向プログラミング特論

2016年度

只木進一: 工学系研究科

目的

- Javaが標準で持つクラスで、良く用いるものを知る
- ■抽象クラス、インターフェース、型パラメタなどを、例を通じて理解する。
- ■Lambda式の使用例を理解する。

原始型と対応するクラス

- ▶クラスでない型(原始型)
 - int, short, long, float, double, char, byte, boolean
- ▶対応するクラスがある
 - Integer, Short, Long, Float, Double, Character, Boolean
- ▶代入は、自動的に型変換される

String

- ■Stringは文字列を保持するクラス
- ■保持している文字列を変更できない
- ■比較できる(Comparableを実装)

Stringの主要メソッド

- String valueOf(): 引数に対応する文字列を返す
- ■int length():長さを返す
- ■boolean equals(Object):比較
- String[] split(String reg): 正規表現 regで、文字列を分割

StringBuilder

- ▶文字列を作るクラス
- ▶主要メソッド
 - append(Object o)
 - ●o を文字列に変換して追加する
 - delete(int start,int end)
 - ■一部分の削除
 - → toString()
 - ▶文字列へ変換

リストなど

- ■リスト、集合、写像など、クラスオブ ジェクトの集まりを収容するクラス
- ■保存できるクラスを指定する
 - ▶コンパイル時にエラー検出可能
 - ▶内容取り出し時に、自動的に型変換

リスト

- ■java.util.Listは、インターフェイスであり、インスタンスを生成できない
- ■スレッド間での整合に注意

List<E> list = Collections.synchronizedList(new ArrayList<>());

リストの利用

- ■リストへの追加:put(E e)
- ■リストからの取り出し: i番目の要素
 - E get(int i)

Listの操作

▶「全ての要素に対して」の基本形

```
StringBuilder sb = new StringBuilder();
for(T p:list){
   sb.append(p.toString()).append(nl);
}
```

●総和を計算する

```
int a = 0;
for(Entry entry:list){
    a += entry.getScore();
}
```

Lambda式を使ったListの操作

▶「全ての要素に対して」の基本形

```
StringBuilder sb = new StringBuilder();
list.stream().forEachOrdered(
   p -> {
      sb.append(p.toString()).append(nl);
   }
);
```

●総和を計算する

写像

▶キーとバリューの組

Map<K,V> map =
 Collections.synchronizedMap(new HashMap<>());

- ■一つのキーに一つのバリュー
- ■put(K,V)で追加
- ▶キーの集合の取り出し
 - Map.keyset()

写像の操作:Lambda式